



地元ならではのコラボレーション企画も

スターバックスコーヒー高山岡本店の限定商品として販売されているのが、オークヴィレッジ特製のマグカップ「ウッドマグ」(写真上・中央の二つ)。拭き漆塗りに上に漆でデザインが施されています。オリジナル商品(左端)は、木地の美しさが際立ちます。



こちらは塗りを専門に行う工房。カップ本体と持ち手の部分は別々に漆を塗り、後で接合する。「持ち手のないカップもぜひ販売してください」と取材スタッフから要望も……

塗りが終わった段階で、湿度を調整した室で乾燥。それぞれ木地の表情が異なり、見飽きることがない



匠たちの大胆かつ繊細な技に感動

建築材を扱う工房では、棟梁が柱の継手を加工中(写真左)。ここで施された柱を持って全国各地へ出向き、住宅が建てられます。日本古来の伝統である木組みの技術は確実に受け継がれています。伝統的な技術や文化を守り、若手職人を育むのもオークヴィレッジに掲げられた使命なのです。

オークヴィレッジの中でも人気の高いチェアを作る若手職人(写真左)と、自社製品のメンテナンスを行うベテラン職人(写真右)。幅広い世代の職人が作業に勤しむ



年々稀少になっている国産の無垢材が用いられていること。安全性とデザイン性を兼ね備えた、細部にまでこだわった設計が施されていること。そして、専門性とデザインを形にする確かな技術を持つ職人の手によって、何段階もの工程で作られていること。そうした様子を目の当たりにすると、手仕事によるモノ造りの素晴らしさを実感するとともに、目の前にある製品が愛おしくなりました。

私は、阪急うめだ本店10階『うめだスーク』にあるショールームへ伺うことが多いのですが、店員さんから製品に対する愛情が伝わってくる感じがたまらなく好きです。ソファに腰掛けて目を閉じると、飛騨高山の山懐に抱かれているような安らぎさえ感じます。作り手や売り手の顔が見えるオークヴィレッジのモノ造り、それらが与えてくれる豊かさは計り知れません。

オークヴィレッジ製のテーブルをメンテナンスする工房に立ち寄った時のこと、「うちで作ったものかどうかは一目でわかりますよ」と語ってくれたのは、案内してくれた制作部・設計セクション課長の春田健次さんでした。その言葉を聞いた瞬間、職人としてのモノ造りに対するプライドを感じることができました。

オークヴィレッジというかけがえのない存在

本誌編集長・橋 雅康

ギャラリースペースを後にして、普段お会いすることのできない職人のみなさんのものに向かいました。

オークヴィレッジは文具やおもちゃなどの生活雑貨、家具に建築と、木工芸を通して美に幅広いモノ造りを行っています。私自身は思春期に美術やデザイン、建築分野を志向していたこともあり、オークヴィレッジ製の無垢材でできた額縁やフォトフレームを愛用してきました。もちろん、子育ての際にも安全性の高い玩具や文具は重宝しました。何を隠そう、創業者である稲本正さん(現会長)の生き方に憧れ、著書を何冊も読んできた者の一人です。

北欧家具などでもそうですが、ショールームでオーダーメイドの家具を見ると、かなり高額な値が付けられています。伝統ある有名ブランドとしての価値や海外からの輸送費用を加味したとしても、どこか不透明ですっきりしないものがありました。しかし、今回、オークヴィレッジの工房を回る中で納得する想いが生まれたのです。



オークヴィレッジ大阪
〒530-8350 大阪府大阪市北区角田町8-7
阪急うめだ本店10階
『うめだスーク』北街区
TEL:06-6313-9657(直通)
営業時間:午前10時~午後8時(当面の間)
(阪急うめだ本店の営業日に準じます)



オークヴィレッジ青山
〒107-0061 東京都港区北青山3-4-3
ののおおやま1階
TEL:03-6447-2581
営業時間:午前11時~午後7時
(撮影/齋部 功)



オークヴィレッジ自由が丘
〒152-0035 東京都目黒区自由が丘2-15-22
TEL:03-5731-3107
営業時間:午前11時~午後7時
(撮影/齋部 功)

飛騨高山が誇るモノづくり集団！ いざ、職人さんたちがいる工房へ

案内 経理部主任/広報担当
村田夏奈子さん

制作部・
設計セクション課長
春田 健次さん

